

# 華

編集室 慶徳会 広報室  
〒567-0035 茨木市見付山1丁目3-29  
電話 072-665-5165  
FAX 072-665-5166

## 第61号

令和2年8月発行



見事な演奏に聞き入る皆さん

令和2年7月下旬、新型コロナウイルス感染の再拡大が懸念される時期ではありましたが、徹底した感染予防対策を講じた上、演奏者等関係者の皆様のご理解とご協力のおかげで真華、光華、春菊苑及び常清の里各老人ホームにおいて、プロのミュージシャンによる「ガーデンコンサート」として演奏会を実現することができました。

感染予防のため、ご利用者の皆さんには、半間にわたって外部の方との接触の自粛をお願いし、法人内行事も一切見合わせている中で、今回の計画をお伝えしますと、「楽しみやなあー」の声が上がるなど、期待の高まりが伺われました。

当日は、真華苑で書道クラブをご指導下さっている(有)真奈ミュージックカンパニーの玉井奈々子様の司会進行で、キーボードを山下憲治様(大阪音楽大学短期大学部講師)、クラリネットを鈴木孝紀様(同学部准教授)のお二人に演奏して頂

### ～法人内4老人ホーム～

## プロ奏者による生演奏会開催♪

長い間の活動自粛により、皆さんに閉塞感が増大する中、今回の企画をご提供頂いた玉井様、素晴らしい演奏をご披露下さった山下様と鈴木様に心から御礼を申し上げます。



「完全予防ディスタンス」での演奏会

令和2年3月20日(金) 子供の家で「入進学卒業就職お祝い会」を開催しました。

これまでは、常観堂で法人内各事業所のご利用者・職員から祝福され、激励を受ける中で行われてきました。ところが、新型コロナウイルスから、国の「緊急事態宣言」の前の段階ながら、普段の生活の場で行うことになりました。

### ～子供の家～

## 「入進学卒業就職お祝い会」を開催



理事長から激励を受ける子ども達

自分らしさを発揮するよう激励を受け、また、各事業所のご利用者の皆さんからの心のこもった温かいメッセージをそれぞれの事業所の施設長が代読し、素敵な手作りの手提げカバンのプレゼントを受けました。

子ども達からは、新しい生活に向けての決意や目標を発表してもらい、お礼の歌を歌いました。

頂いた新しい力を

令和2年4月12日(日) 常観堂で、子供の家の子ども達による花見・花祭りを開催しました。

例年であれば、法人内高齢施設で利用者も大勢参加されていましたが、新型コロナウイルスの感染予防のため、残念ながら法人内といえども事業所間交流を自粛させて頂いたことにより、子供の家子ども達とスタッフによるアットホームな行事となりました。

生憎の雨模様でしたので、庭に出て花見や模擬店そして屋外ゲームなどを楽しむことは叶いませんでしたが、室内から目にする雨に煙る桜も風情がありました。

一方、堂内は例年にも増してお釈迦様を囲んで沢山の綺麗な花が供えられ、花祭りの雰囲気満ちる中、子ども達が主役の音楽法要が華やか、かつ、荘厳に勤められました。

みんなの歌声が堂内一杯に響く

## 『花見・花祭り』を子ども達で開催

中で、代表の子ども達が順に献香・献花・献燈・献茶を行い、全員が灌仏をさせて頂いた後、舟木康二施設長から「花見・花祭り」のいわれ等についての講話がありました。

感染予防による休校や行事の自粛等で閉塞感が強まる中、子ども達が伝統行事をとっても楽しみ、職員も子供の家の運営で法人行事をやり遂げた手応えを感じたひと時となりました。来年は、皆様か揃ってお祝いができますよう、切望しています。



施設長の講話に聞き入る子ども達



みんな神妙な面持ちで灌仏しました

思いがけない新型コロナウイルスの感染拡大に世界中が震撼し、年明け早々から、その対策に追われました。慶徳会でも感染が及ばないよう予防対策に法人を挙げて努めたところです。今号は、事業所での工夫・努力も含め、この間の取り組みの紹介記事を中心に編集を行いました。

## 新型コロナウイルス予防策について

統括看護師 保田千世子

世界中での新型コロナウイルス(新型コロナ)感染拡大に伴い、国内各地でも感染者が増大し、一部の病院や介護現場においても「医療崩壊」や「クラスター」といった危機的な状況が発生してしまいました。

慶徳会としては、新型コロナに関する最新情報の迅速な把握を初め法人の産業界及び関係医療機関の医師のご指導も頂いて、感染予防対策の周知を再三にわたって行うとともに、役員が一丸となって、法人内の各事業所の状況や必要備品の整備と情報共有を緊密に行いながら、出来る限りの感染予防対策に努めてまいりました。

特に高齢者施設では重症化しやすい方が多いため、施設内での集団感染の懸念、また職員自身の感染リスクとともに媒介者になってはならないといった両面の不安があったと思われまので、平生以上に入念なミーティング・協議を行いながら、いわゆる「3密」防止に努め、お陰様で現在まで感染の方もなく経過しているところです。

また、マスクやアルコール、また防護服などの衛生用品が不足している中、看護職員が中心となり法人・事業所がごまめに業者との折衝による調達を行い、マスクや防護員服については、一部手作りで作製するとともに、ガウン・ネックツクなどについて研修強化にも努めました。

加えて、ご利用時間の変更やご家族の面会制限、また外出や行事の自粛等をお願いし、皆さまには、大変なご不便やご迷惑をおかけすることとなりましたが、ご理解とご協力を頂き改めて深く感謝申し上げます。

手探り状態で始まりましたこの感染症対策も緊急事態宣言が解除され、政府の方針として、社会経済活動の復活に向けて動きつつありますが、一方で7月中旬以降新規患者数が急増するなど第2波が襲来したものと思われまので、これまでの経過と対応してきた実績を踏まえ、今後、一層の警戒が必要です。

## (デイサービス静華苑) ~「出張サービス」を有効活用~

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、全国でデイサービス事業所のご利用者が、感染防止のために、利用自粛をされたケースが相次ぎました。

静華苑デイもご利用者の一部の方が自粛をされ、ご自宅を毎日過ごされることとなりましたが苑としては、外出されず、また、デイサービスの利用を自粛されることで、気持ちが沈められたり、身体の動きが悪くなったりされないように、介護保険制度で特例的に認められている「出張サービス」という形でご利用者宅を職員2名で訪問し、健康チェックをはじめ、入浴介助や身の回りの手伝い、また職員の声掛けにより体操や散歩等の機能訓練をさせて頂きました。職員にとっても「ご利用者宅での介護」という、いつものデイサービスとは勝手の違う環境の中で戸惑いもありましたが、ご利用者の笑顔や感謝のお言葉に励まされながら、約1ヵ月の間に延べ286名のお宅を訪問させて頂きました。この間、ご利用者が口々におっしゃっていたのは「誰かと話したい」ということでした。

限られた期間の「サービス」でしたが、静華苑デイで久ぶりに再会されたご利用者の皆さんは、マスク越しながら、念願が叶って満面の笑みを交し合い、会話が弾みました。

このたびの「コロナ禍」は、誰もが初めて体験する大変な状況でしたが、職員一同、改めて、この仕事のやりがいや意義を確認することができ、また人と人との繋がりの大切さを実感する貴重な経験となりました。

## コロナ禍の慶徳会の取り組み



## (真華苑) ~手洗い後の消毒を徹底~

真華苑ではご利用者に新型コロナウイルスについて繰り返し注意点や予防(「三密」を避けること等)の説明を続けてきたところ、皆さんがお互いに手洗い後のアルコール消毒(苑では、従来から手洗い後の消毒をアドバイスしています。)の声掛けや換気の窓開け、並ぶ時は間隔を空けるなどご自分で、おできになることを率先して行動して下さい、折に触れて「皆で協力して乗り越えよう」と世の中全体が大変な状況にあっても、苑内は明るい雰囲気にあります。

講師を迎えて活動している「書道クラブ」では4・5月にご利用者と職員とで練習し、6月から予防対策を講じた上で、講師の指導が再開され、久しぶりに笑顔で再会できたことで筆を持つ手が止まり、マスク越しではありますが、お喋りの花が咲きました。

## (しみず) ~小グループ散歩などで運動不足を解消~

天気の良い日は屋上でラジオ体操を行ったり、「密」に気をつけながら小グループに分かれて散歩や花見に出掛けたりして、外出自粛で運動不足の日々が続く中、体を動かしご利用者と共にリフレッシュすることができました。

また、ご家族から手作りを含めてマスクのご寄付を受け、本当に助かりました。皆さまから応援して頂くお気持ちに職員一同心から感謝しています。

## (れふあ) ~密を避けて、公園で&交代制昼食~

学校が休みの間、「密」を避けるため、ひと気の少ない時間帯を選んで色々な公園に出掛けました。マイクrobasに乗って小高い山のある公園でウォーキングをしたり、茨木が一望できる広大な公園で、コロナを吹き飛ばすぐらいの勢いで遊びました。子ども達の運動不足とストレス解消になり、ご家族からもとても好評でした。また、「密」を避け、昼食を2交代制にし、各テーブル1人ずつで食事を摂りました。普段は落ち着かない子どもも、1人だと穏やかに食事ができ、今後の支援に活かせる発見がありました。

新型コロナウイルスの終息が未だ見えない状況ですが、職員一同、経験や知識を出し合い、皆様と共に乗り越えていきたいと思っております。

## (光華苑・春菊苑) ~ステイホームでマスクづくりに挑戦~

光華苑・春菊苑の女性職員から「マスクも手に入らないし、ステイホームだし、ご利用者と一緒にマスクを作ろう!」と呼びかけを行い、5月16日から計5日間にわたり、布マスク作りに取り組みました。

呼びかけに5名のご利用者が応えて下さって2階食堂で作業を始めましたが、さすがは元ベテラン主婦の皆さん、職員の簡単なレクチャーを受けると手慣れた手つきで採寸からカット、縫うペースもとても手際よく、あっという間にマスクが完成しました。1枚できると次々と仕上げられ、気づけば30枚のお手製マスクができ上がりました。

心のコもった手作りマスクは施設内行事の際の記念品としてご利用者の手に渡り、作り手と、もらった方がともに喜び合い、手作りの温かさを感じる貴重な機会となりました。

## (子供の家) ~「紙飛行機大会」で大盛り上がり~

新学期早々から休校が続く4月初旬、折り紙が大好きな子ども達でするので、子供の家1階の長い廊下を会場に「紙飛行機大会」を開催しました。

幼児さんから職員まで条件は同じで、色紙一枚で飛行機を作成して、一人ずつ順番に飛ばし、着地点に相当する壁に赤いテープを張っていきました。序盤で小学3年生のR君が信じられないぐらいの長い距離を飛ばし大興奮。年長児らは紙飛行機に秘密があるのではと真剣に観察。折り方にそれぞれ工夫を凝らしベスト記録越えを目指しました。10位以内には景品が出されることを職員からアナウンスされると熱気はさらに上がりましたが、力が入り過ぎて紙飛行機が真っ直ぐ飛ばなかったり、急降下したりと悔しい結果となることもありました。

成績は、R君がぶっちぎりの優勝。準優勝は、何と施設長で、面子?が保たれたようです。入賞者にはアイスクリームがプレゼントされました。

大会から3ヵ月以上たちましたが、まだ時々紙飛行機が廊下を飛んでいることがあります。



「モットモット飛んで行ケ!!」